

北海道剣淵高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言 PartⅡ)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和 7 年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
Ⅰ グローバル教育 で人材を育てる 学校	1 「生徒一人ひとりを 一層輝かせ成長させ る教育」を行いま す。	全ての科目において、プロジェクト学習を 取り入れ、課題解決学習を主軸とする学習 を实践する。	課題探究学習におい て、地域の課題解決へ 向けた取り組みを实践 することができた。	地域が抱える課題をさ らに探求し、その解決 に向けた学習を展開す る。	5
	2 「世界と日本をつな ぐグローバル教育」 を行います。	剣淵町の姉妹都市であるペルー共和国タル マ市の特産物キヌアの活用を通して、グ ローカル教育を实践する。	規格外キヌアを鶏の飼 料として有効活用する ことができた。	キヌアの新たな活用方 法を探求する学習を展 開する。	4
Ⅱ 地域社会・産業 に寄与する学校	3 「地域農業の生産を 支える教育」を行いま す。	(1) 町の特産物であるジャガイモやマメ 類等を生産することで、地域の理解と栽培 過程を学習する。 (2) ショウガ栽培を实践し、地域の特産 物となるよう、活用方法について学習を深 め、かつ地域への普及活動を行っていく。	(1) 地域特産物の栽 培・販売を通して、地 域の農業理解に努め た。 (2) 地域農家での試 験栽培を実施すること で地域での認知度がさ らに高まった。	(1) 新たな地域特産 品となりうる野菜類を 栽培し、地域への普及 活動に取り組む。 (2) ショウガ活用法 や販売先を検討し普及 に努める。	5
	4 「地域の農業関連産 業や6次産業化に寄 与する教育」を行いま す。	2年次における町内農家委託実習、3年次 における産業現場実習を実施し、地域産業 構造や6次産業など、地場産業の理解に努 める。	2、3年次ともに、地 域の方々の多大なる協 力を得て、地域産業の 理解を深めた。	生徒・実習先の要望を さらに取り入れつつ、 各種実習の充実化を図 り、生徒一人ひとりの 勤労観醸成と産業理解 に努めていく。	5
Ⅲ 地球環境を守り 創造する学校	5 「地球環境を守り、 創造する教育」を行 います。	(1) 温室栽培における冬季のハウス施設 の暖房を節約(灯油の使用を抑制する)。 (2) プロジェクト学習における循環型農 業の推進に努める。	(1) 暖房使用を極力 抑制し野菜栽培を实践 した。 (2) 落ち葉や米ぬか など未利用資源を活用 した循環型農業を实践 した。	(1) エネルギー問題 を常に意識した農業生 産を实践する。 (2) 地域環境に配慮 した活動を展開する。	5
	6 「地域資源を活用 し、地域振興の拠点 となる教育」を行いま す。	(1) 絵本の里ならではの取り組みとし て、絵本を教材とした地域資源を活用し、 情操教育に繋げた取り組みを実施する。 (2) 道北の海洋副産物を活用した農業生 産を推進する。	(1) 絵本をテーマに したガーデニング作り を行い高い評価を受け た。 (2) ホタテ貝殻を粉 砕し、常時鶏に給餌し た。	(1) 町の資源である 絵本を活用した情操教 育をさらに深めてい く。 (2) 道北の未利用資 源を新たに開拓し、有 効活用できる学習を展 開する。	5
Ⅳ 地域交流の拠点 となる学校	7 「Society5.0の時代 に応じた教育」を行 います。	I C Tを用いたスマート農業について、近 代的農業経営における学習を实践し理解を 深める。	管外のスマート農業 メーカーや先進農家を 視察し、I C Tを活用 した農業がどのような ものか理解を深めるこ うができた。	今後も継続してスマー ト農業に関する農業教 育を实践する。	4
V 地域防災を推進 する学校	8 「地域防災を推進す る教育」を行いま す。	(1) 定期的に防火査察を実施し、日頃か ら地域防災意識を高める。 (2) 自然エネルギーの活用を意識した教 育を实践する。	(1) 防火査察を毎月 実施し、防災意識を高 めた。 (2) 再生可能な資源 を活用した教育を实践 した。	(1) 防災意識をさら に高める活動を進め る。 (2) 地域にある再生 可能な資源をさらに活 用する教育を展開す る。	5